

平成27年度
事業報告書

自 平成 27年 4月 1日
至 平成 28年 3月31日

社会福祉法人小諸市社会福祉協議会
長野県小諸市与良町六丁目5番1号

平成27年度小諸市社会福祉協議会事業報告

I 総務係

(1) 理事会・評議員会の開催

- ・理事会 5回開催（4月1日、5月22日、9月25日、1月29日、3月11日）
- ・評議員会 3回開催（5月27日、10月1日、3月23日）
- ・第三者委員会 1回開催（10月1日）

(2) 役職員研修会の実施

- ・理事・評議員・職員研修

日時・場所 11月26日 ベルウィン小諸

講演会 「体力と健康」

講師 佐藤照之氏（東御市企画財政課 スポーツ健康科学修士）

(3) 経営検討委員会の設置

社会福祉法の改正に伴う定款や規程の変更、社会福祉協議会が抱える課題や経営の在り方などを委員会で検討。

3回開催（1月26日、2月18日、3月14日）

(4) 社屋の移転

小諸市野岸の丘総合福祉センターの開設に伴い、社屋を同センター内に移転。

(5) 社協会費・日赤社資

(単位：円)

名称	実施月	平成27年度	平成26年度	平成25年度
社会福祉協議会 会費	9月	8,706,720	8,549,800	8,602,800
共同募金		6,080,363	6,521,965	6,633,658
全戸	10月	4,635,998	4,677,936	4,854,889
法人		1,215,046	1,216,920	1,234,920
その他		229,319	627,109	541,849
日赤社資	6月	6,296,979	6,381,600	6,636,650
各種災害等義援金	随時	391,134	401,138	410,826

※日赤事務

- ・炊き出し見舞金 1件（火災）

(6) 福祉車輛・福祉用具等の貸し出し

(単位：件数)

	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
リフト車	104	81	96
車椅子	52	49	44
点字器	1	1	1
杖	1	—	—
アイマスク	—	1	2
P-スクリーン	1	—	—
募金箱	2	—	—
※パワーポイント、プロジェクター、ワイヤレスマイクは貸出実績なし			
※リフト車利用実績内訳			
・通院（入退院含む）	90 件		
・福祉施設	7 件		
・その他（リフレッシュ等）	7 件		

(7) その他

- ・紙の「門松」配布 全戸配布 約 16,100 世帯
- ・緊急援護事業 火災（全焼） 1 件
- ・高齢者祝賀訪問 該当者 9 名（うち希望者 2 名訪問）

[考察] 社協会費・共同募金・日赤社資は、前年より減少している。社協の活動を知ってもらうために作成した DVD の活用や、地域福祉活動計画の推進をしていく中で、社協会費・日赤社資は納入者自身も社会福祉の活動に対して資金面での貢献をし、地域に還元されているという仕組みの周知や意識づけをしていく必要があると思われる。そのためにも社協自体の存在意義を確立し資金増加につなげたい。

平成 28 年度も「誰もが、その人らしく安心して暮らすことができる社会」を地域住民と協働で創っていくためにも、平成 27 年度の評価を踏まえ、引き続きその役割を果たすべく組織づくりをしていく必要があると考える。

II 地域福祉係

1 介護予防事業

(1) 地域における介護予防事業の充実

①介護予防地域交流事業

	開催区	延べ開催数	延べ参加者数
平成 27 年度	67	889	17244
平成 26 年度	67	791	15,992
平成 25 年度	68	683	15,135

[考察] 今年度も各区の開催回数は増加し地域の支え合い活動は活発に行われている。一方、参加者の固定化や開催側の後継者不足という課題もある。今ある支え合い活動が継続できるような支援が社協に求められている。

②ヘルスアップセミナー

	開催数	延べ参加者数	実参加者数	平均参加者数	新規者数(※)
平成 27 年度	18	591	99	32.8	46
平成 26 年度	18	639	111	35.5	61
平成 25 年度	17	717	262	65.5	172

[考察] 会場を高齢者福祉センター糠塚園にて、「運動」「脳血管疾患」「認知症」「介護保険制度」をテーマに開催をした。引き続き住民ニーズに沿った事業展開を図り、介護予防についての情報を広く発信していく。

③健康達人区らぶ

	開催区	延べ開催数	延べ参加者数	新規開催地区
平成 27 年度	59	521	8,029	4
平成 26 年度	55	489	7,436	4
平成 25 年度	59	473	7,135	2

[考察] 健康達人区らぶとして平成 24 年度から実施。延べ参加者数は、平成 26 年度から 593 人増加している。平成 27 年度に実施した地区へアンケートにより、地区ニーズに合わせた健康達人区らぶを進めていく。

④糠塚サロン

	延人数	男性	女性	健康相談	60代	70代	80代	90代
平成 27 年度	2,364	1,166	1,198	368	359	987	923	95
平成 26 年度	2,841	1,441	1,400	383	679	1,342	773	47
平成 25 年度	2,361	1,029	1,332	541	635	1132	625	13

[考察] 介護予防関連情報の掲示、無料のお茶を飲みながらのカラオケなど、趣味を通じて交流を図る場を提供している。参加者による広報効果もあり、特に後期高齢者の参加者が多く見られた。

平成 27 年 10 月からの予約制相乗タクシー開始に伴い、利用者は 60・70 代が減少、80 代 90 代は増えているが、延人数では減少している。

(2) 介護予防地区指導者の育成、活動の拡大支援

①介護予防指導者養成研修

申込者	38名
昨年度からの継続者	12名
延べ受講者数	178名
実受講者数	29名
研修修了者数	13名
地区指導者登録者数	11名

②介護予防地区指導者レベルアップ研修

地区指導者登録者数	385名
延べ受講者数	391名
実受講者数	80名

[考察] 活動上の課題について共有し、次年度以降の検討課題として整理した。

2 地域福祉の推進

(1) 福祉推進委員会の設置、支え合いマップ作成の支援

	作成済	内 新規作成	見直地区	福祉推進委員会設置数
平成 27 年度	66 地区	1 地区	11 地区	64
平成 26 年度	65 地区	1 地区	12 地区	64
平成 25 年度	64 地区	1 地区	6 地区	46

[考察] マップ作成については、68 地区中 66 地区が作成を完了しており、今後も作成・更新支援を継続していく。福祉推進委員会は、モデル区を設定し積極的に周知紹介したい。

(2) 小諸市社会福祉大会

日時・場所 10月14日(水) 小諸市文化センター
主題 「今ある支え合いを大切にし、更なる地域福祉の輪を広げます」
参加者 約 410 名

[考察] 小諸市地域福祉活動計画期間の初年度となることを踏まえ、住民の皆さんと地域の支え合いについて考え再認識できることを目的に開催した。

多くの皆さんに参加していただきたいということから、講師に「三四六」氏を迎え、外から見た長野県、小諸市という切り口から地域にあった地域づくりの大切さについてご講演いただいた。見込みより参加動員は得られなかったが、普段関わりのある方とは違った方の参加があり、その面からは収穫があったと思われる。

(3) ボランティアセンター事業

①相談・調整数

	相談総数	紹介数	派遣人数
平成 27 年度	992 件	217 件	939 名
平成 26 年度	1,304 件	234 件	1,142 名
平成 25 年度	1,493 件	121 件	1,373 名

②登録数

	個人登録	うち 新規	団体登録	団体登録 人数	うち新規
平成 27 年度	361 名	19 名	242 団体	5,893 人	12 件・1,199 人
平成 26 年度	342 名	21 名	230 団体	4,694 人	22 件・288 人
平成 25 年度	321 名	15 名	208 団体	4,406 人	13 件・265 人

③各種講座及び研修会の企画・開催

- ・ボランティアセンター交流活動（延 181 名参加）

開催日	内 容	参加人数
7 月 31 日	セカンドライフは地域が舞台	24 名
9 月 18 日	健康でいるためのロコモ対策	32 名
11 月 14 日	第 11 回「小諸駅おそうじ隊」	111 名
1 月 20 日	楽しみながらボランティア	14 名

- ・しゃべり場（延 154 名参加）

開催日	テ ー マ	参加人数
4 月 20 日	ハーブのある暮らしについて	65 名
5 月 26 日	いいやま発/NPO って何!?	18 名
8 月 3 日	簡単に作れるキラキラ万華鏡	33 名
12 月 11 日	折り紙で作る干支飾り	18 名
3 月 17 日	石けんでデコパージュ作り	20 名

- ・古切手整理 月 1 回開催 延 71 名参加
- ・エコキャップ仕分け 月 1 回開催 延 63 名参加
- ・ボランティアセンター利用者の集い

日時 6 月 27 日
 講演 「きほんのき～NPO ってなあに～」
 講師 山室秀俊 氏
 参加者 66 名

④市民活動講座

日時 2 月 9 日
 テーマ 地震体験車に乗ってみよう（協力者 小諸消防署職員）

⑤ボランティア情報誌「ボランティアこもろ」発行 No.127～No.132 号

⑥震災支援

- ・各支援団体からのお知らせ等の通知（3 回、3 種類）

⑦その他

- ・第16回小諸市NPO・ボランティア交流集会“ボラフェスタ” 約430名参加
- ・佐久地区ボランティア研究集会 15名参加
- ・ボランティアセンター清掃 28名参加

〔考察〕 平成27年度より、指定管理から業務委託に、また施設名称は「小諸市市民活動・ボランティアサポートセンター」に変更になった。中間支援組織の育成に向けて市企画課と打ち合わせを行いながら、NPOについての講座の開催やボランティア活動の推進を図る中で、ボランティアの方に協力していただき「しゃべり場」などが開催できた。

また、平成24年6月からエコキャップを収集してきたが、搬送ルートを喪失した。その後、各企業と調整を図り、NPO「世界の子どもワクチンを日本委員会」に届くルートを再び確保し事業継続をすることができた。

(4) 各種団体への支援

①小諸市遺族会への支援

役員会開催 5回(4月、7月、9月、12月、2月)

- ・10月7日 第41回小諸市戦没者及び満州開拓犠牲者追悼式、小諸市遺族大会
- ・10月22日 長野県遺族大会(ホクト文化ホール)
- ・10月23日 長野県戦没者追悼式(ホクト文化ホール)
- ・3月27、28日 靖国神社参拝旅行

②小諸市献眼運動推進委員会

- ・8月12日 花市にて献眼運動(登録者数22名)
- ・1月3日 成人式にて献眼運動(登録者数20名)

(5) セーフコミュニティこもろへの参加

- ①子どもの安全対策委員会 11月24日
- ②防災対策委員会 6月29日、11月30日、2月6日

(6) 地域福祉活動計画の運用

①地域福祉計画の周知

冊子配布 290冊(理事、評議員、区長、市役所、学校等)
 ダイジェスト版配布(全戸配布)
 社会福祉大会での情報発信

②地域福祉活動計画の推進

地域福祉活動計画推進委員会 社協内体制を整備し11回開催

3 児童福祉の推進

(1) 福祉学習の支援

学校名	対 象	時間	内 容
芦原中学校	3 学年	2	車椅子体験・アイマスク体験を通して、相手の立場について考える
東小学校	4 年生	3	「誰もがかかわり合えるように」をテーマに講義し、思いやりについて考える
		3	点字学習を通じて、障がい者への思いやりを考える
		1	視覚障がいがある方との交流・アイマスク体験を通じて、障がい者への思いやりを考える
小諸東中学校	福祉委員会	1	社会福祉協議会が取り組む福祉から「福祉とは何か」をテーマに講義 収集活動（エコキャップ・古切手・募金）の取組みの方向性を考える 震災支援について考える
	1 学年	1	「地域に学ぶ」をテーマにアイマスク体験・視覚障がいがある方との交流を通じて、障がい者の気持ちについて考える
水明小学校	4 年生	2	点字学習・「誰もがかかわり合えるように」をテーマに講義し、思いやりについて考える
		2	視覚障がいがある方との交流・アイマスク体験を通じて、思いやりについて考える

〔考察〕 社協による出前講座に加え、社会資源と学校とのコーディネートを行うことで、学校のニーズに沿ったプログラムの提供を行うことができた。今後、全学校で取り組みが図れるよう、引き続き各学校長宛に福祉学習の案内を行うとともに、教育委員会・学校・社協との連携が必要であると思われる。

4 障がい者・高齢者支援

(1) 独居高齢者ふれあいレター・安心コール事業の実施

① ひとり暮らし高齢者交流会

日時・場所 6月23日(火) ベルウィンこもろ

参加者等 74名参加 協力ボランティア 11名

② あんしんコール 対象者 40名 通話延べ回数 826回 通話担当者 2名

③ ふれあいレター 対象者 716名 はがき送付数 3,255通 ボランティア 7名

④ おせち頒布事業 12月31日 利用者 161食

(3) 高齢者福祉センターの充実

①利用者実績数

(単位：人)

年度	開館日数 (日)	団体利 用者	個人利用 者	年間利用 者	日平均
平成27年度	266	5,334	16,271	21,605	81
平成26年度	264	4,728	19,881	24,609	93
平成25年度	263	6,011	19,926	25,937	99

②健康相談実施 月6～7回看護師対応 相談者数 延368名

③各種の啓発活動及び団体の育成

高齢者クラブ連合会事業、健康づくりや消費者保護等パンフレットの掲示・配布

④趣味の会利用者実績

趣味名	実施回数	延べ人数	1回平均人数
書道	24	338	14.1
俳句	12	88	7.3
木目込み	12	40	3.3
生花	22	340	15.5
墨絵	11	71	6.5
詩吟	21	177	8.4
絵画	18	90	5.0
三味線	30	206	6.9
フラダンス	41	374	9.1
囲碁	93	996	10.7
岳心会(詩吟)	43	158	3.7
合計	327	2,878	8.8

[考察] 予約制相乗タクシー開始に伴い、利用者は減少したが、昨年に引き続き入浴利用者一人あたり100円程度の協力金をお願いし、多くの利用者から協力を得られた。今後、協力いただいた資金を計画的に修繕費に充てていきたい。

また、ゆず湯サービスや、健康器具導入(自転車型運動器具など)・畳替等の環境整備を行い、利便性の向上を図った。

(4) 希望の旅事業 (障がい者を対象に2回開催)

日時 10月2日(金)、10月31日(土)

場所 駒ヶ岳千畳敷カール

参加者 28名、21名 合計49名

(5) ふれあいまつり

日時 12月6日(日)

場所 高齢者福祉センター糠塚園にて実施

参加者 600人

(6) 糠塚行かざあ広場の開催 高齢者福祉センター糠塚園にて実施

3回開催 参加人数26名

(7) 高齢者クラブ連合会への支援

- ・理事会：5回 会長会：6回 友愛訪問：2回
- ・マレットゴルフ大会：2回、グラウンド・ゴルフ大会：2回、健康教室：1回
会報発行：2回 各部会活動
- ・10月10日 第54回小諸市高齢者クラブ大会 300名参加
- ・11月14日 懐古園清掃奉仕 130名参加
- ・3月1日 わら馬パレード 360名参加
- ・3月11日 歌謡大会 135名参加

5 地域住民への広報・啓発活動の充実

(1) 広報誌「社協情報」の発行（年5回） 5月、7月、9月、11月、1月発行

(2) ホームページによる情報発信

(3) DVD作成

[考察] 広報誌は、親しみを感じる愛称を募集し、「ささえーるこもろ」を愛称とし、見やすさと内容の充実を図ることにした。いずれも平成28年度より実施していく予定。

ホームページは、事務所移転を機にリニューアルしたが、情報更新などの調整が引き続き必要である。また社協紹介DVDを作成し、各種イベントやホームページ上に掲載するなど活用を図った。

III 相談支援係

(1) 居宅介護支援事業

(人数：利用実人数)

		要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要支援
		1	2	1	2	3	4	5
平成27年度	人数	7	17	203	132	40	49	27
	延回数	7	17	397	261	93	95	50
平成26年度	人数	10	8	187	129	61	47	24
	延回数	10	21	351	265	131	98	53
平成25年度	人数	5	18	171	145	97	35	31
	延回数	5	18	341	291	205	87	55

[考察] 本年度は2名・専従の人員配置を行い、業務を行う（0.5人減）が、大幅な利用者の減数と至らなかった。新規利用者及び継続利用者において状況把握を行い、適切なマネジメントによりサービス計画の作成ができた。また、他事業所及び他職種との連携を行うことで地域・家族ニーズに気づき、他事業との連携を行うことで、包括ケアの視点に立ち、計画の作成と地域福祉の向上に努めることができた。

(2) 指定障害者相談支援事業

(人数：利用実人数 計画件数:延計画作成回数)

	サービス等利用計画作成数	特定	障がい児	地域移行	地域定着
平成 27 年度	人数	51	9	0	0
	計画数	196	31	0	0
平成 26 年度	人数	38	12	6	4
	計画数	171	36	6	17
平成 25 年度	人数	28	618	1	4
	計画数	109		6	31

[考察] 職員3人体制(兼務)で取り組み、計画件数の増加となった。また、近隣市町村で行う懇談会、現任研修に参加することに相談支援専門員の質の向上を図ることができた。

又、サービスの狭間でサービス利用ができない方についての居場所の検討を行い、小諸市障がい福祉事業所等連絡会の発足ができ、不足している社会資源を作る準備ができた。

(3) 生活福祉資金貸付事業

(件数：利用実人数)

	平成 27 年度 (件数)	平成 26 年度 (件数)	平成 25 年度 (件数)
総合支援資金	0	0	0
福祉資金	3	0	3
緊急小口資金	1	0	0
特例緊急小口資金	0	0	0
貸付合計数(件)	4	0	3
貸付合計額(円)	1,790,000	0	1,149,000

(4) 小口資金貸付事業

(件数：利用実人数)

		平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
貸付	件数	14	15	28
	金額	345,000	228,050	687,000
返還金額(円)		362,000	669,200	786,000
貸付残高(円)		1,039,000	1,859,150	3,144,700

※平成 27 年度 不能欠損処理 6 件 122,000 円

[考察] 同じ係内事業である、生活困窮者自立支援事業及び生活福祉資金貸付事業、緊急食糧提供支援事業との連携を図る事で、相談者の課題解決ができ、生活支援及び生活再建の一助となった。又、定期的な償還指導を行うことで、貸付滞納者の現状の把握ができ、償還計画及び生活再建の支援を行うこととなった。又、今年度は生活福祉資金

貸付事業・教育支援資金・緊急小口資金貸付の利用件数があり、資金貸付によって生活再建の支援ができた。

(5) 日常生活自立支援事業

(契約数：契約実人数)

	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
契約数(件)	26	20	17

(6) 金銭管理・財産保全サービス事業

(契約数：契約実人数)

	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
契約数 (件)	0	0	0

(7) 心配事相談事業

(受付数：延相談件数)

	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
受付数	3,046	2,703	1,535

[考察] 相談支援係内の専門職と情報共有や連携を行い、専門的支援ができる体制整備ができた。本年度は実地指導が行われたことや、立科町、御代田町等管内社協での利用者も増え、管内社協専門員及び支援員ともに支援内容の共有を行うことで、質の向上に努めることができ、新規利用者も増加し、利用者の権利擁護が図れることとなった。

(8) 福祉有償運送サービス事業

(人数：利用実人数 回数:延利用回数)

	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
人数	173	117	148
回数	324	235	284

[考察] 団塊の世代の研修終了後のドライバーの活躍によって福祉有償運送事業の運営ができています。が、新たな団塊の世代の育成が困難となり、職員でのドライバー育成を行い、外出困難の方への社会参加の機会を図ることができた。

(9) 緊急食糧等提供事業

(人数：利用実人数 回数:延利用回数)

	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
人数	13	19	18
回数	28	34	36

[考察] 利用人数、利用回数は減少したが再度の利用依頼や、食糧支援のみでの課題解決に至らないケースも多くみられた。他のサービスの利用なども組み合わせての支援を図

ることとなった。他事業との連携を図り、利用者の生活課題の解決を図ることができた。

(10) 交通・災害遺児見舞金 5件 350,000円

(11) 生活困窮者自立支援事業

(人数：利用実人数)

	平成27年度
相談実人数	358
新規相談受付数	148
相談件数合計	1,381
プラン作成数	38
就労支援対象者数	8
住宅確保給付金	0
生活福祉資金貸付紹介	10

〔考察〕 自立相談支援事業のみでの開始となったが、専門員及び支援員の人員体制で支援計画を作成するとともに、他機関との連携を図り、困窮者支援が包括的にできた。プチバイト等の紹介により就労へつなげることができたが中間就労がなく、出口への支援が具体的にできなかつた。地域特性や課題複合化を伴っているケースが多く、今後の対応方法に課題となっている。

IV 介護支援係

(1) 通所介護事業（指定通所介護・介護予防通所介護）

(人数：利用実人数 回数：延利用回数)

		要支 援1	要支 援2	要介 護1	要介 護2	要介 護3	要介 護4	要介 護5	緊急 宿泊
平成27年度	人数	3	12	47	31	19	23	0	0
	回数	16	74	386	218	213	255	0	0
平成26年度	人数	12	24	55	32	32	34	0	0
	回数	67	169	324	226	258	448	0	0
平成25年度	人数	16	17	37	75	35	26	3	7
	回数	59	120	279	647	475	395	10	8

〔考察〕 介護保険新規利用者及び重度介護利用者の減少となってしまった。介護保険改正や利用者ニーズの変化・他事業所の活躍も手伝い、新規利用者、重度介護利用者の定着が困難となってしまった。職員の質の向上を図り、現利用者様への適切な支援継続ができるようにします。

(2) 通所介護事業（基準該当障がい福祉サービス）

(人数：利用実人数 回数：延利用回数)

	サービス内容	放課後等デイサービス	生活介護	生活訓練	機能訓練	日中一時支援事業
平成27年度	人数	22	18	0	0	0
	回数	126	173	0	0	0
平成26年度	人数	17	19	0	0	1
	回数	115	97	0	0	1

[考察] 基準該当障がい福祉サービス等の利用者は定着利用がされており、新規利用相談もある。利用者特性に合わせた支援を行い、職員の質の向上に努め、徐々に利用希望が増加しつつある。介護保険での利用者減少の補てんができたと思われる。

(3) 介護保険（指定訪問介護）・障害者居宅支援事業（自立支援）

(人数：利用実人数 回数：延利用回数)

事業名	介護度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
指定訪問介護	利用人数（平均）	8	12	31
	身体介護1	550	879	1,981
	身体1生活1	65	20	573
	身体1生活2		14	240
	身体1 2人対応		230	0
	身体介護2	52	123	406
	身体2生活1	140	236	191
	生活援助2	89	194	775
	生活援助3	159	302	1,906
	訪問初回加算	1	6	8
指定介護予防 訪問介護	利用人数（平均）	3	4	12
	回数		342	914
	予防訪問介護1	25	22	335
	予防訪問介護2	197	320	440
	予防訪問介護3	156	0	139
障がい者居宅介護	利用人数（平均）	14	15	12
	回数	3,708	2,941	2,108
有償ヘルパー サービス	利用人数	2	3	0
市単事業 ヘル パー派遣事業	利用人数	0	1	0

訪問介護従事職員数	正規職員	常勤臨時職員	パート職員
	2名	1名(2月まで)	8名(8月～1減)

〔考察〕 訪問介護事業においては介護支援専門員より提出される居宅介護サービス計画を読み込み、アセスメントを行い、訪問介護内容の充実が図れる支援計画の作成ができた。2ヶ月に1回の合同研修及び月2回の職員ミーティングを行い、訪問介護員の質の向上を図ることができた。介護保険では賄えない部分について、有償ヘルパーにて訪問を行いサービスの狭間の支援を行うことができた。

居宅介護事業においては新規利用者及び継続利用者の状況を把握し、必要に応じ、および定期的に内容の検討を行い、居宅介護計画を作成し、利用者、利用回数の増加を図ることができた。又、訪問介護員が相談支援専門員研修を受け、障害特性が理解できるようスキルアップが図れた。他機関との連携を行うことによって利用者ニーズ、家族ニーズ、地域ニーズの把握を行い、地域福祉の向上を図ることができた。

V 小諸市地域包括支援センター

年 度	相談方法					相談介入実数			二次予防実態把握		
	来所	電話	訪問	その他	合計	新規相談数	継続相談数	合計	実態把握数	内二次予防対象者	
平成27年	677	8824	3088	411	13000	553	956	1509	44	0	
平成26年	457	8655	2982	354	12448	359	843	1202	0	0	
平成25年	437	8103	3378	243	12161	429	817	1246	1635	413	
	主たる相談者区分										
	本人	家族	サービス事業者	行政機関	医療機関	民生委員	協力相談員	近隣・知人	その他	合計	
平成27年	3962	2501	3399	1430	1115	226	22	74	271	13000	
平成26年	3511	2357	3616	1570	1014	128	26	48	176	12446	
平成25年	3761	2477	3198	1414	922	158	34	72	125	12161	

	総合相談									
	介護相談 (介護方法等)	介護保険関係	介護予防	その他保健・福祉サービス	合計	内認知症関連相談				
						延件数	実数	若年性認知症延件数	若年性認知症実人数	
平成27年	2279	1438	20	1835	5572	443	60	9	2	
平成26年	2759	2086	36	2119	7000	291	49	2	1	
平成25年	2667	2189	217	1829	6902	217	77	7	7	
	権利擁護									
	成年後見関連		経済問題関連		困難事例		虐待関連		延べ数合計	
	実数	延べ数	実数	延べ数	実数	延数	実数	延べ数		
平成27年	40	213	25	128	13	92	8	74	507	
平成26年	11	152	5	135	5	69	8	94	450	
平成25年	11	126	13	81	8	62	6	69	338	
	包括的・継続的ケアマネジメント				連携に関わる会議					
	ケアマネジメント支援	介護支援専門員支援	その他支援	合計	地域連携に係わる会議	多職種連携に係わる会議	ケアマネ支援に係わる研修会等	サービス担当者会議	その他連携に係わる会議	その他会議
平成27年	2111	25	197	2333	36	147	19	521	175	90
平成26年	1962	24	297	2283	32	120	7	494	157	174
平成25年	1553	16	252	1821	25	141	23	442	136	146
	介護予防給付									
	延継続プラン数		当年新規プラン数		年間プラン作成数					
	直営分	委託分	直営分	委託分						
平成27年	3426	120	132	1	3679					
平成26年	3349	162	152	10	3673					
平成25年	2977	173	124	10	3284					

[考察] 職員数 10 名 社会福祉士 3 名 保健師 2 名 主任ケアマネ 2 名 看護師 3 名(H28.4.1 現在)平成27年度は介護保険制度改正に伴い、地域包括支援センターの機能

強化をするため、市高齢福祉課内に地域包括支援センター相談窓口が9月より設けられ1名の相談員が配置されました。平成29年度までには、現在の予防給付が見直され、新たに介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合支援事業）に移行されます。地域包括支援センターでは移行に伴う実態把握や現在予防給付を受けているサービス利用者のサービスの見直し等を行ってきました。総合支援事業は平成28年10月より導入が予定されていますので引き続き、市と連携しながら総合支援事業の導入がスムーズに行われるよう取り組んでいきます。また、平成27年度は地域ケアシステムの具体的な方法として、地域ケア会議の開催を進めていくため、先進地区より講師を招き、具体的な開催方法について研修しながら地域ケア会議を開催しました。進め方や地域ケア会議の到達点など課題も見つかっており、平成28年度に向けて内容の充実を図りたいと思います。同時に在宅サービス調整会議では地域ケア会議の目的や役割を理解していただくよう学習会を開催し、また、民生児童委員や各サービス事業者等も地域ケア会議に参加していただく地域の力であることを理解していただくよう進めてきました。地域ケア会議が地域ケアシステムの地域基盤整備に繋がるよう内容等を検討していきたいと思います。

個別のケースにつきましては、年々、相談件数は増加傾向で、平成27年度は相談介入件数が1,509件前年度より307件の増加となっています。相談者として多いのは本人、家族となっています。また、今年度は民生児童委員からの相談が前年度より100件増となっており、在宅調整会議への参加をお願いする中で包括職員と民生児童委員に相談できる関係が出来てきたと考えます。相談内容としては、総合相談が5,572件。権利擁護507件。包括的・継続的ケアマネジメント2,333件となっています。内容としては認知症関連、成年後見関連、経済問題関連が増えています。職員のスキルアップを図り、適切な対応ができるようにしていきたいと考えます。